

# ショートステイにおける長期 (ロング) 利用の現状と課題

青葉苑居短期入所生活介護

土橋誠司	田中 剛	萩 千明
平川昌幸	森岡陽子	清崎京子
岩本幸三	松尾 忍	大坪昭子

# 青葉苑ショートステイの概要

▶ (部屋数) 4人部屋：1部屋(4床)

▶ 2人部屋：2部屋(4床)

▶ 1人部屋：6部屋(6床)

計 14床

▶ ※長期(ロング)利用者数：9名(男性：0名 女性：9名)

R3年9/30現在

▶ (職員体制)

▶ 介護職(常勤)6名【男性：3名 女性：3名】

▶ 看護師(常勤・ショート専任)1名【女性：8：00～17：00勤務 日休み】

▶ 生活相談員(常勤)1名【男性】

▶ ※特養併設型であるが、建物の構造上、ショート(1F)・特養(2F)

▶ 単独型ショートに近いと言える

# 事例紹介

A氏（男性） 93歳 要介護3

病名：起立性低血圧 S字結腸癌術後 前立腺肥大症

日常生活自立度：A2

認知症自立度：Ⅱa

家族：妻（要介護5） 三男（主介護者）

## 支援経過 ①

R2年12/10

長期（ロング）利用開始

歩行：T字杖+介助にて約10m

▶ 夜間覚醒頻回、長時間便座に座り続ける等

R2年12/17

①トラゾドン25mg 服用開始

※①脳に作用して意欲の低下を抑える

→ 状況変わらず、覚醒時のフラツキが酷くなる

R2年12/21

受診（服薬変更）

②ロゼレム8mg

③ルネスタ1mg

※②・③眠剤

## 支援経過 ②

服用後の改善はあまり見られず、R3年1/5～主治医の指示にてトラゾドン（頓服）  
しかし当日、発熱し誤嚥性肺炎にて入院（1/5～1/19）

R3年1/19 退院・再入所

ロゼレム8mg + ルネスタ1mg      トラゾドン25mg（頓服）

服用開始

※トラゾドン25mgは毎晩覚醒時に服用

R3年2/2 眠剤変更

ルネスタ1mg →2mgへ増量（服用時間：20時→21時へ）

トラゾドン25mg →50mgへ増量

2週間の様子観察後に専門医の検討予定

以前に増して職員に大きな声、フラツキ・転倒リスク増

## 支援経過

③

R3年2/15

主治医よりフラツキ・転倒予防のため

ルネスタ2mg → 1mgへ減量 専門医の検討はなし

R3年3/5

眠剤変更 ※④興奮を抑えて不安や緊張を和らげる

ルネスタ1mg（中止） → ④クエチアピン12.5mg

トラゾドン25mg（中止） → クエチアピン12.5mg

ロゼレム8mg + クエチアピン12.5mg + クエチアピン12.5mg

R3年3/11

三男・ケアマネジャーと面談

事業所より「ロング利用継続は難しい状況」であることを伝える

ケアマネの提案

①複数の施設（グループホーム等）の入所申込

②専門医療機関にて入院加療

## 支援経過

④

R3年3/16

ロゼレム8mg + クエチアピン12.5mg + クエチアピン12.5mg  
+ クエチアピン12.5mg

主治医より・・・1週間の様子観察後に専門医の調整

三男の思い：専門医への受診には消極的

その後も状況はあまり変わりなく・・・

R3年5/6

専門医受診し、そのまま入院となりショートステイ退苑



# ( 考 察 )

- ◆ ショートステイ長期（ロング）利用者増の要因
  - ① 介護療養病床の減少（この10年で約6.3万床減）
  - ② 特養等の入所施設待機者の増加
  - ③ 慢性的な職員不足
  
- ◆ 職員不足の対策の1つとして、ロング利用者の割合を増やし、送迎等の業務負担の軽減を図ることはできるが・・・  
体制が不十分な中で重度のご利用者の利用継続はリスクを伴う
  
- ◆ 職員の疲弊、モチベーションの低下 → バーンアウト



## ◆ A氏 ロング利用継続困難となった要因

A氏以外にも夜間排泄等、センサーコールが頻回なご利用者が複数名  
当時、センサーマットご利用者はA氏を含めて5～7名を  
夜勤職員1名で対応（同時に複数のセンサーコールあり）

→ 転倒事故の発生の恐れ

→ 夜勤職員の心身の負担はかなり大きい

## ◆ 9名のロング利用者維持のメリット・デメリット

（メリット）「安定した利用者数の確保」「送迎等の業務の負担軽減」  
「ご利用者にじっくり向き合うことができる」

（デメリット）「入院した場合に利用実績減」「新規利用者の受け入れの制限」  
「重度のご利用者が増えることで職員の負担増」

# 今後の課題

- ① ロング9名のメリット・デメリットを踏まえながら  
新規ご利用者を確保していく
- ② 人材確保・人員配置（体制）の工夫  
人材育成・人事異動・働きやすい環境作り

「 人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり 」  
武田信玄